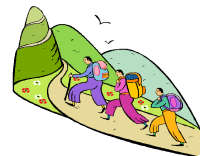


山行報告



◆六甲・全山縦走

山行日： 05-11-05 (土) (本番に向けてのトレーニング山行)

参加者： L 今山 砂川延 西口 原田 船津 舩賀 山内 **計7名**

コース&時間：別表による

【感想】 西口

昨年、六甲全山縦走にチャレンジしてみようと思っていたが日時が近づくにつれ自信がなくなり取りやめた。今年もその時期が近づいてきた。

体力、気力からして今年を逃すともういけないかも分らないと思い、山の会の六甲全山縦走に参加することを決断し申し込んだ。申し込んで

日時が近づくにつれ、56KMという長丁場を完歩出来るのかと言う不安感、初体験をするヘッドライトをつけての夜間歩行、仲間達の足をひっぱり、迷惑をかけるのではないかとといった責任感が頭をよぎる。家内が疲れたら無理をしないで途中で下山させてもらう勇気が必要だとのアドバイスもあり少し気が楽になった。当日の天候、始発電車に間に合うよう起床できるのかも不安材料ではあった。

そしてその当日がやってきた。緊張感が午前3時に目がさめる。睡眠不足は明らかである。午前5時29分の始発電車に乗り、6時6分に山電塩屋駅に着いた。今回の山行は事前にメンバー表をもらっていたので8人が参加すると聞いていたが1人減の7人が参加した。メンバーを見ると私を除いて山の会の古参メンバーで登山歴も豊富、かつ健脚組であり。はたしてこのメンバーに遅れをとらずについていけるのか不安がだんだん募ってきた。いよいよ長いドラマの幕開けである。天候は予想もしなかった快晴、朝方は肌寒く感じたが、スタート後、太陽が昇り始めてから徐々に気温も上がってきた。塩屋駅から登山口までは住宅地を歩き、そこから旗振山に向かってなだらかな登りだ。紅葉にはまだ1~2週間早く感じられ木々の葉っぱは少し赤くなり始めている。

6時45分山頂に着く。この時間もう数人の人が散歩していた。旗振山から見下ろした瀬戸内海は少しもやっていたが淡路島や海峡大橋は見えた。少し休憩後歩き始めた。須磨アルプスは通らず高倉台の中を通り、横尾、妙法寺、丸山を経由して神鉄ひよどり越駅に9時に到着した。

途中、旗振山から高倉へ抜ける登山道にはウバメガシの林の群生、森林浴にはもってこいの照葉樹林、常緑樹林が続いており直射日光は避けられた。ひよどり越駅から一つ目の難関、菊水山(標高458M)の山頂を目指して登りはじめる。水のないダムを横切り登山道に入り直線的な上りを一步一步のぼりはじめる。途中ハイカーたちと出会うたびに挨拶を交わす。

菊水山ゴルフ場を右手にみながら急な階段をのぼる。結構足がつかれるもので頂上近くでは足が上がりなくなっていた。頂上に辿り着いたのが10時、一服した後再び歩き始め、長いくだりが続いた後緩やかなジグザグの登山道を上り詰めると鍋蓋山(標高486M)に辿り着く。〔11時19分〕ここからまたくだりが続き再度山大竜寺を通り、市が原にやってくる。時間も12時17分昼時である。

ハイカーたちが河原でバーベキューをして楽しんでおり、美味しそうな匂いを嗅ぎながらここで昼食休憩、温度も22~23度に上昇しておりのが渴き水分補給を

コースタイム

05-11-5 六甲・全縦走(トレーニング)

	到着時間	出発時間
塩屋駅		6:10
山上遊園	6:47	6:55
妙法寺	7:55	8:06
鶴越駅(神鉄)	9:00	9:10
菊水山頂	10:10	10:20
鍋蓋山頂	11:18	11:28
櫻茶屋	12:10	12:25
掬星台	13:40	13:55
丁字が辻交差点	14:52	15:05
六甲ガーデンテラス	15:45	15:55
一軒茶屋	16:30	16:40
分岐点	17:00	17:00
塩尾寺	19:10	19:10
ゴール	19:22	



何度もしたため近くの自販機でお茶を買い求める。出発して6時間、まだ半分の距離も歩いていない。さて、ここから2つ目の難関、天狗道である。きつくて長いのがり延々と続く、ここの登りは相当足にこたえギブアップ寸前までいったが仲間の励ましもありなんとかクリアして摩耶山の掬星台につく。ここからゴールまではそれほどUP, DOWNの急なところはないようなので時間短縮をするにはもってこいのコース。しかし、アゴニー坂の上り途中で左足太股がつり始め、ダメかと失速しかけたが大事に至らず、また歩き続ける。

六甲山ガーデンテラスを通過、途中六甲最高峰（標高931M）へ行く道を通らず、一軒茶屋に向かった。ここに到着したのは16時30分。この頃になると太陽も沈み始め、肌寒くなってきたため上着を着る。ここからは終着のゴールまで3時間位だとのことで、もう少し、もう少しと自分に言い聞かせながら皆についていく。いよいよ空が暗くなってきたのでリーダーがヘッドライトをつけるようにとの指示、全員ヘッドライトをともして歩行。いよいよ最後の難関、夜間歩行となった。目が近眼でよく見えず石ころ道や木の根っこがあって4回程転び足を擦りむく。前方に宝塚の街の灯りが見えてきた時は気持ちがあっとしてきたが距離的にはまだまだ遠い、転びながらも仲間の励ましや助けがありやっと塩尾寺迄辿りついた。19時17分だった。

ゴールしたときはやっと着いたと言う安堵感と無事完歩した達成感、そしてなにより仲間達の励ましの言葉と勇気づけをもらったことに感謝したい。メンバーの皆様ありがとう。結果は56KMを13時間17分、長いドラマが終了した。誰かの言葉ではないが自分を褒めてやりたい。

人間は一人では生きて行けない。「人」と言う漢字を見れば支えあっているのがよく分かります。山歩きも一人ではなく仲間達と歩く、お互い支えあってもらい、励まし、勇気付けられることがなんと素晴らしい事なのか、再認識させられました。

小生にとって、六甲全山縦走はこれが最初で最後です。



◆ 〈氷ノ山山塊〉 藤無山山行：一紅葉と温泉を楽しむ一日

日程 11月23日（水、祝日）晴れ

参加者 L：砂川延 SL：野々村 宇高 金島 喜多

坂本 待場 山内 山本正 渡邊 計10名

山行記録



藤無山～天滝山行記

記：山本

今朝はよく冷えているから良い天気である事を確信して気分よく勇んで出かける。山遊会入会以来、近傍の山で高御位山、六甲山、小野アルプス以外での初めての山行だ。

自宅からの所要時間がよく分からず高砂運動公園に少し早めに着いたら、金島さんは既に来ていた。他の人達も続々集まってきたて定刻7:30過ぎに出発。今日は祝日で車は多目のようだが順調に29号線を北へと進む。計画通りの2時間で登山口へ到着、着いた所は大屋スキー場だ。リフトが動いて若者達がグラススキーを楽しんでいた。我々はそれを横目に見ながら県道を登り始める。道は霜が降りていたせいか濡れてい

場 所	着時刻	発時刻	摘 要
高砂総合運動公園		7:30	
大屋スキー場ロッジ		9:35	開発中の林道を抜ける
藤無登山口	10:10		
	10:35	10:45	休憩 雪あり
藤無山頂上	11:20	12:00	1139米 昼食 ふな落葉 見晴らしよし
	12:30	12:35	休憩 途中大阪方面グループあり
藤無登山口	12:45		
大屋スキー場ロッジ	13:15		天竜行決まる
天竜口	13:40		
天竜	14:25	14:45	さすが滝100選 98米の大瀑布
天竜口	15:10		
大屋スキー場ロッジ	15:40		ロッジにて入浴
ロッジ	16:30		
高砂総合運動公園	18:50		解散

て所々水溜まりもある。ゲレンデの頂上を過ぎてから更に県道を登りながら、何でこんな奥まで道を付ける必要が有るのだろうかとドロドロ道への腹いせに思いながら進んでいると、所々に昨年の台風の惨禍が残っている。砂川さんに写真を撮っという指示されるが、道端左崖に木も岩も流された凄い土砂崩れの跡だ、右路肩の上方からはポトリポトリと石ころが落ちてくる。やはり道路工事は必要かと一人でガッテンしながら進む。登山口は道路工事の終点付近に有った。ここの工事場所のノリ面には霜柱が見られ、来る途中の道路標示に有った温度計は2度であったがこの近辺はおそらく0度前後なのだろう。しかし寒さは全く感じない。登行は初めからいきなりの急勾配で、木の根が露出した良くも悪くもないコースで時々思い出したように木に目印のテープが巻いてある。しばらくすると尾根に出てここからはキツイ登りは無く快適コース、展望の良い所では時々立ち止まり景色を楽しみながら皆んなルンルン気分で行く。後に氷ノ山が見えた少しだが冠雪している。やはりあそこは高いのだ、更に登っていくと道端の日陰に少し雪が残っている。木々の間から見下ろすと森林と紅葉の織りなす色がジグソーパズルの様にくっきりと分かれてきれいだ。頂上には平均所要の1時間40分で着いた。風がないせいもあるが寒さは感じないが手袋を脱ぐと手が冷たい。温度は結構低いだろう、体を冷やさないように上着を着て昼食をとる。頂上では東方面の展望が良く山内さんがあれこれと説明してくれるが山の区別が出来ない。自身山をそんな意識で見慣れてないからか、そういう感性がないからのか、おそらく後者だろうと諦めつつ聞いていた。昼食休憩後は水も飲まず休憩もあまりしないまま一気に下山したらまだ1時過ぎだ。暑かったときの高御位山、長かった三ノ峰、西六甲縦走等と比べると体は楽であるが何か物足りない。長い、キツイ山行は苦しい、辛い思いが残る反面それはそれで達成感、充実感が出来る。ほどよさ加減も難しい物だ。景色の良し悪しと



は別の感受が山行の喜び、楽しみの中に見出せてそれが病み付きになるんじゃないかと歩きながら一人勝手に思いつつ駐車場へ到着。何れにしてもまだ時間があり天滝に行く事となった。こちらは祝日の煽りで老若男女大勢の人が行き来し中にはハイヒールの女性も、、道は狭く急勾配もあり転落したら恐らく助からないような絶壁もある。観光地ではあるがそれなりの靴を履いて行く注意書き位はないと拙いのはと思いつつ、滝と紅葉の風景を楽しみ、藤無山より少し多くの汗をかいて下山、再び大屋スキー場に戻りこの場所に有る若杉高原温泉で入浴後帰路に着いた。帰りは少し道が混んでいたが19時前に高砂運動公園に無事到着、運転手さんご苦労様でした。